

# 平成20年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録等から)



(群馬県防災航空隊が三平下から傷病者をヘリ収容、2008年7月)

財団法人 尾瀬保護財団

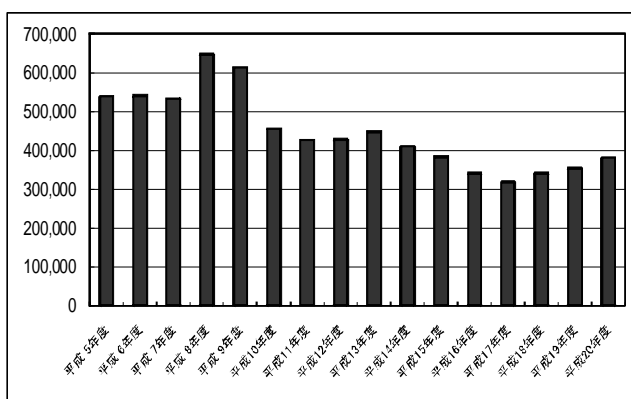
## 目 次

1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	2
(1)	年別発生状況	2
(2)	地域別発生状況	2
(3)	原因別発生状況	3
(4)	シーズン別発生状況	3
(5)	月別発生状況	4
(6)	年齢別・男女別発生状況	4
(7)	傷病者の居住地別発生状況	5
(8)	グループ人数別発生状況	5
(9)	傷病事故の通報状況	6
3	救助活動	7
(1)	救助隊出動状況	7
(2)	ヘリコプター活用状況	7

## 1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は5月大型連休後から10月下旬までであるが、同期間に環境省が各登山口に入山者数カウントセンサーを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者数は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半で推移し、平成8、9年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬の紹介により60万人台前半に増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系への影響を懸念されたが、平成10年度には不景気と週末の悪天候から入山者数は約46万人に減少し、平成14年度まで40万人台で推移し、平成17年度には平成元年からの計測以来最低の約31万8千人となった。また平成20年度には尾瀬国立公園の拡張エリアを含めてではあるが、平成17年度比で約20.1%増の約38万2千人となり微増傾向を示している。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6
平成14年	409,942	91.5
平成15年	384,251	93.7
平成16年	341,558	88.9
平成17年	317,847	93.1
平成18年	341,369	107.4
平成19年	354,901	104.0
平成20年	381,700	107.6



尾瀬の入山者数の推移 (環境省のデータから作成)

## 2 傷病事故の発生状況

### (1) 年別発生状況

平成20年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）、尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）職員が出動した傷病事故は85件で、過去最多となった前年度を下回ったが過去二番目の発生件数である。

年度	区分 発生件数 (件)	遭難者(人)				合計
		死亡	行方不明	負傷	その他	
8年度	16	0	0	16	0	16
9年度	33	2	0	31	0	33
10年度	49	4	0	45	0	49
11年度	55	1	0	54	0	55
12年度	70	2	0	68	0	70
13年度	46	0	0	46	0	46
14年度	51	2	0	49	0	51
15年度	33	1	0	32	0	33
16年度	46	1	0	45	0	46
17年度	59	0	0	59	0	59
18年度	80	3	0	77	0	80
19年度	109	1	0	94	14	109
20年度	85	1	0	73	11	85

### (2) 地域別発生状況

地域別では鳩待峠～山ノ鼻、尾瀬ヶ原、大江湿原～尾瀬沼北岸の順で、昨年に引き続き鳩待峠～山ノ鼻と尾瀬ヶ原を中心とするエリアで事故が目立った。

地域	区分 発生件数 (件)	発生 比率	遭難者(人)				合計
			死亡	行方不明	負傷	その他	
鳩待峠～山ノ鼻	30	35.3	0	0	29	1	30
尾瀬ヶ原(研究見本園含)	18	21.2	0	0	16	2	18
大江湿原～尾瀬沼北岸 (VC周辺含)	10	11.8	0	0	6	4	10
三平下～大江湿原	3	3.5	0	0	3	0	3
三平下～尾瀬沼南岸	4	4.7	0	0	4	0	4
沼山峠～大江湿原	2	2.4	1	0	0	1	2
大清水～尾瀬沼	0	0.0	0	0	0	0	0
沼尻～見晴	3	3.5	0	0	3	0	3
見晴～御池 (平滑ノ滝、三条ノ滝含)	0	0.0	0	0	0	0	0
至仏山	1	1.2	0	0	0	1	1
燧ヶ岳	8	9.4	0	0	7	1	8
アヤメ平	1	1.2	0	0	1	0	1
不明	5	5.9	0	0	4	1	5
合計	85	100.0	1	0	73	11	85

( 3 ) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道での転倒や転落事故が60件と圧倒的に多く、全体の70.6%を占めており、木道整備区間が多い尾瀬地域の特徴を示している。原因は雨や霜で滑った、段差やかすがいなどにつまずいた、写真撮影や景色を眺めていて足を踏み外した等様々だが、平坦な道路と違い、ちょっとした気の緩みが大きな事故にもつながりかねない。また、病気や疲労・低体温などで歩行困難になる原因は、日常生活での体調管理や、日帰りでの強行軍の行程に問題がある場合も多く、ゆとりをもった行動と装備は不可欠である。

原因	区分	発生件数	遭 難 者 ( 人 )				合計
			死亡	行方不明	負傷		
					自力下山	搬送	
木道上の転倒		60	0	0	46	14	60
歩道上の転倒		7	0	0	4	3	7
病気		5	1	0	2	2	5
疲労・低体温		8	0	0	8	0	8
落石		0	0	0	0	0	0
道に迷い		0	0	0	0	0	0
雪崩・雪渓崩落		0	0	0	0	0	0
落雷		0	0	0	0	0	0
徒歩失敗		0	0	0	0	0	0
その他		4	0	0	3	1	4
不明		0	0	0	1	0	1
合計		85	0	0	64	20	85

( 4 ) シーズン別発生状況

今年度は春山・夏山シーズンの発生件数が多く、全体的に各シーズンを通して傷病事故が多かった。救助隊の出動した件数も同様である。

シーズン	区分	発生件数 ( 件 )	遭 難 者 ( 人 )				合計
			死亡	行方不明	負傷		
					自力下山	搬送	
春山(4・5・6月)		36	0	0	28	8	36
夏山(7・8月)		33	1	0	24	8	33
秋山(9・10・11月)		16	0	0	12	4	16
合計		85	1	0	64	20	85

(5) 月別発生状況

月別でも例年に比べ、シーズンを通して傷病事故が増加している。これは、天候だけに限らず、軽装や無理な行程などにも原因があるのではないかと考えられる。

中でも6・7月の搬送件数が全体の半数を占めているのが特徴的であり、入山者数の多い月には、上記の原因に加え、木道上での転倒・転落による負傷が相次いだ事がうかがえる。

シーズン	区分	発生件数 (件)	遭難者(人)				合計
			死亡	行方不明	負傷		
					自力下山	搬送	
4月		0	0	0	0	0	0
5月		8	0	0	8	0	8
6月		28	0	0	20	8	28
7月		28	1	0	20	7	28
8月		5	0	0	4	1	5
9月		5	0	0	4	1	5
10月		11	0	0	8	3	11
11月		0	0	0	0	0	0
合計		85	1	0	64	20	85

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢比は、40歳未満が14.1%、40歳以上が76.5%と入山者の年齢に比例する形で、中高年の傷病事故の割合が高くなっている。また、男女共に50代、60代の事故が目立ち、救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。男女比では女性が6割強で例年女性の方がやや多い傾向にある。

シーズン	区分	発生 件数 (件)	男性(人)				比率 (%)	女性(人)				比率 (%)	性別 不明 (%)	男女 計 (%)		
			死 亡	行方 不明	負傷			合 計	死 亡	行方 不明	負傷				合 計	
					自力下山	搬送					自力下山					搬送
20歳未満		5	0	0	3	0	3	0	0	2	0	2				
20代		2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	8.2		14.1	
30代		5	0	0	2	0	2	0	0	3	0	3				
40代		3	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3				
50代		24	0	0	4	2	6	0	0	12	6	18	49.4		76.5	
60代		28	1	0	7	2	10	0	0	12	6	18				
70歳以上		10	0	0	4	3	7	0	0	3	0	3				
不明		8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2.4	5.9	9.4	
合計		85	1	0	20	7	29	0	0	36	13	51	60.0	5.9	100.0	
比率			1.2	0.0	23.5	8.2	36.7		0.0	0.0	42.4	15.3	60.0			

( 7 ) 傷病者の居住地別発生状況

傷病者・救助隊の搬送ともに東京都・神奈川県を中心とした関東圏が大半を占めている。近くて気軽な登山と油断せず、時間や体力を考慮した計画と事前準備が必要である。

区分 都道府県	遭難者				合計
	死亡	行方不明	負傷		
			自力下山	搬送	
青森県	0	0	1	0	1
宮城県	0	0	1	0	1
福島県	1	0	1	1	3
新潟県	0	0	1	0	1
栃木県	0	0	4	1	5
群馬県	0	0	1	1	2
埼玉県	0	0	5	4	9
東京都	0	0	15	4	19
茨城県	0	0	4	0	4
神奈川県	0	0	10	4	14
千葉県	0	0	4	0	4
長野県	0	0	1	1	2
愛知県	0	0	1	0	1
石川県	0	0	1	0	1
富山県	0	0	2	0	2
京都府	0	0	0	1	1
大阪府	0	0	3	0	3
兵庫県	0	0	1	2	3
佐賀県	0	0	0	1	1
沖縄県	0	0	1	0	1
不明	0	0	7	0	7
合計	1	0	64	20	85

( 8 ) グループ人数別発生状況

グループの人数は把握できなかったため、グループの形態別にとりまとめた。ツアーの場合、軽度な症状は添乗員やガイドが対応しているものと思われ、実際にはこれより多いものと考えられる。今年度はどのグループ形態とも発生件数が多く、明瞭な差が見られなかった。

しかし傷病事故発生時に手当やレスキューを行うのは、本人や同行者である可能性が最も高く、重度な傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難なため、複数人での登山が望ましい。

形態	区分	発生件数 (件)	遭難者				比率 (%)
			死亡	行方不明	負傷		
					自力下山	搬送	
単独		29	0	0	26	3	34.1
グループ		24	1	0	14	9	28.2
ツアー		22	0	0	14	8	25.9
不明		10	0	0	10	0	11.8
合計		85	1	0	64	20	100.0

(9) 傷病事故の通報状況

通報の9割以上は、通報者がビジターセンターへ来所して口頭で行っている。傷病事故が発生した場合、携帯電話の通話エリア圏外であることの多い尾瀬では、直近の有人施設（ビジターセンターや山小屋）に駆け込む必要があるため、このような結果となったと思われる。また、尾瀬沼ヒュッテや尾瀬ロッジは、地元村の救助隊現地事務局であるため、ここからビジターセンターへ連絡が入る事もある。

通報方法	区分	通報者						合計	比率 (%)
		本人	家族	同行者	他人	山小屋 (救助隊含)	不明		
口頭		49	5	16	3	3	1	77	90.6
携帯携帯		0	0	0	0	0	0	0	0.0
電話		0	0	0	0	3	0	3	3.5
アマチュア無線		0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他無線		0	0	0	1	1	0	2	2.4
不明		0	0	0	0	1	2	3	3.5
合計		49	5	16	4	8	3	85	100.0
比率		57.6	5.9	18.8	4.7	9.4	3.5	100.0	



### 3 救助活動

#### (1) 傷病者対応時の出動状況

発生件数では過去2番目に多く、そのほとんどがビジターセンターでの対応であった。担架搬送の場合には、ビジターセンター職員も救助隊の臨時隊員として出動するため、発生件数よりも出動回数が増えている。

年度	出動区分	消防	救助隊	ビジターセンター	一般	合計	発生件数(件)
平成8年度		2	4	12	0	18	16
平成9年度		12	20	10	0	42	33
平成10年度		8	33	16	0	57	49
平成11年度		9	28	27	0	64	55
平成12年度		11	18	45	0	74	70
平成13年度		9	21	22	0	52	46
平成14年度		9	14	31	0	54	51
平成15年度		8	10	19	0	37	33
平成16年度	記入漏れが多くデータが揃わず割愛						46
平成17年度		16	12	35	0	63	59
平成18年度		17	22	77	0	116	80
平成19年度		10	18	106	2	136	109
平成20年度		15	12	68	0	95	85

#### (2) ヘリコプター活用状況

傷病事故85件のうち13件でヘリコプターを依頼し、13人を搬送した。出動は尾瀬沼が7件、見晴が1件、山ノ鼻が4件で尾瀬沼へのヘリコプター出動が多かった。

年度	出動区分	依頼件数	負傷者救助	病人等救助	行方不明 捜索	遺体収容	合計
平成8年度		2	1	1	0	0	2
平成9年度		5	3	1	1	0	5
平成10年度		3	3	0	0	0	3
平成11年度		5	5	0	0	0	5
平成12年度		7	5	1	1	0	7
平成13年度		6	6	0	0	0	6
平成14年度		6	4	1	1	0	6
平成15年度		6	4	1	0	0	5
平成16年度		7	7	0	0	0	7
平成17年度		12	8	4	0	0	12
平成18年度		8	3	3	0	2	8
平成19年度		11	6	4	0	0	10
平成20年度		13	10	3	0	0	13
合計		91	65	19	3	2	89